

高松市・「新番丁小学校」がいわい、

老若男女寺に集る笑顔

日新、二番丁、四番丁の3小学校が来春統合し、今の二番丁小学校(高松市錦町2丁目)の場所にある新校舎で「新番丁小学校」がスタートする。9月から使用が始まった新校舎の階段はガラス張りで、元気に走り回る子どもたちの姿が見える。神社仏閣も多いこの地区で、子どもたちを中心とした老若男女の交流ぶりを窺ってみた。

まち
ぶら
週刊



お堂に広げたシートの上で、子どもからお年寄りまでが、初対面にもかかわらず、協力し合ってそばを打った

二番丁小学校の校区には、細い路地や古い町並みが多い。約30年ほど前までは、道で遊ぶ子どもの姿がたくさん見られた。商店街には駄菓子屋がいくつもあり、東西の校門前には文具店があった。

子どもの数の減少もあって、駄菓子屋がなくなり、文具店も閉めてしまった。しかし、来春には統合によって、学校に通う子どもの数も大幅に増えることになる。

「小学校を中心に町のいきわいが戻ってくれば」と期待するのは、同小学校の向かいにある徳成寺の住職、大山健児さん(42)だ。

大山さんは10年前、亡くなった祖父の寺を継いだ。順調な滑り出しではなかった。寺の年中行事も参加者が少ない。親鸞の「教行信証」を何百回も読み込んだが、熱い語れば語るほど、説教を聴いている人が居眠りした。「勉強ばかりで頭ごかしになっ

ていた」と妻のひとみさん(43)は振り返る。

「原点に立ち返って、人との交わりのなかで見直していこう。月に1度、檀家だけでなく、一般の人が寺に集まる行事「寺ともせー」を企画した。07年1月に開いたもちつきでは、県内各地から約80人が集まってくれた。豆まきや流しをめぐらして、季節が感じられるイベントを続けて、もうすぐ3年に



洋裁しながらお茶を

1950年に開業した柴田洋裁学院では、花嫁修業のために多くの女性たちが下着やカーテンなどの洋裁を習っていた。一度休校したが、初代院長のめいひの柴田美穂子さん(32)は写真左に母の美代子さん(同右)が2001年に洋裁教室とカフェを組み合わせた柴田sibayoとして再スタートさせた。少人数制の洋裁教室は3カ月ごとのコース。有機栽培の玄米を使い、乳製品を使わないメニューが評判だ。美穂子さんは「毎週に洋裁をしながら、お茶を飲むのも楽しい」



阿部 食堂

あの人

野菜と果物 絶妙の味

「フルール・デュ・ポワ」は、約2年半前、「お客さんの健康を」をテーマに、有機栽培の野菜と果物をメインにした、フルール・デュ・ポワがおすすめです。季節には野菜をたくさん使った「全粒粉のパン」や「全粒粉のパン」がおすすめです。お客さんの健康を、フルール・デュ・ポワがおすすめです。